

1 自己評価及び外部評価結果

(A ユニット)

事業所番号	0673000642		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	山形県 鶴岡市 羽黒町 赤川 字 熊坂 47番3		
自己評価作成日	平成 23年 9月 30日	開設年月日	平成 17年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・開設当初から地域に密着し、地域の方々と日常的にお付き合いさせていただいている点
- ・農業高校の生徒や地元の老人クラブの皆様と一緒に花壇づくりをしている点
- ・毎月『歌笑のつどい』を開催し、地元の老人クラブの皆様やご家族の皆様と交流を図っている点

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目 3—31		
訪問調査日	平成 23年 11月 16日	評価結果決定日	平成 23年 12月 1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時より地域からの温かい支援を受けながら、日常的な交流を積極的に取り組んでいます。夏祭りを始め、様々な催しには高校生から老人クラブまで幅広く来所があり、地域の一員としてのつながりを大切にしている姿勢が、家族や地域の方の協力の輪を広げています。また、職員を育てる取り組みにも力を入れ、研修会参加や情報収集など一人ひとりのスキルアップに繋げ研鑽を高めています。代表者も職員と一体となってケアに取り組み、穏やかで温もりのある、利用者と職員の笑顔が溢れている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域から理解され、親しまれるホームづくりをしよう』という理念を掲げ、朝礼での唱和や職員会議等でその理念を共有しながら日々のケアに取り組んでいる	「心に太陽を輝かせる」を基に、理念、目標、職員心得を掲げ、会議等で唱和し意識向上に努めている。開設7年目を迎えこれまでを振り返り、地域密着型サービスの役割を理解し、温かい心で接すること、利用者の立場に立って出来ることを再確認し合い取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただいたり、地域の方々から畑・花壇づくりの協力を得る等、開設当初から日常的に相互の交流を図っている。また、ご家族や地域の方々を招いて月に一度開催している『歌笑のつどい』での交流は、地域の方々や利用者様の楽しみ事の一つとなっている	地区のいも煮会や敬老会、防災訓練等の行事に参加をしている。事業所主催の夏祭りや高校生による植栽作業、さらに毎月行なわれる「歌笑のつどい」には家族・ボランティアを始め地域の人たち大勢の参加があり、日頃より様々な取り組みをしながら発信し、ふれあいを深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々や利用者様との交流の中で、認知症の理解を深めて頂いている。また、認知症に関する質問や相談に対しては、これまでの経験をもとにアドバイスするなど対応している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・地域・行政等から参加していただき奇数月に会議を開催。利用者様の状況報告や事業報告をした後、参加した方々より色々な情報をいただいたり、意見交換を行ったりしている。また、その内容を職員会議等で職員にも伝え、サービスの向上につなげている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所からの報告事項に留まらず、参加者からの率直な意見等をもらい双方の情報交換の場に繋げ、利用者のサービス向上に活かしている。毎回、家族全員に案内を出し、欠席者にも議事録を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の毎月の訪問時や運営推進会議開催時、また、市主催のグループホーム部会や会議・研修会等への参加時等、事業所の実績やケアサービスの取り組みを市町村担当者に積極的に伝えることにより、協力関係の基盤づくりにつなげている	市の部会や研修会、介護相談員の来訪等を通じて積極的に連携を取り、事業所の取り組み状況を把握してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	毎年一回は代表者及び全職員で身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束となる具体例とその弊害を学び、玄関等の施錠やその他の身体拘束をしないで、その時々利用者様一人ひとりの状態や気持ちに寄り添いながら、話に傾聴したり、散歩やドライブにより気分転換を図っていただくなどし、不安なく過ごしていただけるよう工夫している	職員は利用者に与える身体的・精神的苦痛を理解し、安全と自由の両立に見守りを優先して、拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関の鍵は開錠している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連について学ぶ機会があれば積極的に参加。身体拘束と併せて、年に一度は内部研修会を開催し、定義から具体的な虐待事例まで全職員で再確認しながら学び合い、虐待防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記同様、権利擁護関連について学ぶ機会があれば積極的に参加し、制度の理解を深められるよう努めている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や解約時においては利用者やご家族が不安や疑問を抱くことのないよう、十分な説明と対応を行うよう心掛け、また、利用途中で改定等を行う場合は、運営推進会議で提案し、理解・納得をいただいたうえで実施している			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員からの報告、利用者様との日常的な関わり、ご家族訪問時の会話やアンケート結果、また、各ユニット会議・全体会議・運営推進会議での意見交換をもとに、利用者様やご家族等の意見や要望を受け入れ、ホームの運営に反映させている	気軽に意見や要望など言い易い環境づくりに努めている。運営推進会議にも参加してもらい意見等を表せる機会を設けたり、外部評価を参考にした家族アンケートを実施し、日頃の思い等の把握に努め、職員は協議しながらサービスに活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者(法人事務局長)が常駐しており、管理者は毎月の各ユニット会議に参加し職員の意見や提案を聞き、それを代表者に伝え、また、月一回開催している全体会議には代表者も出席し、運営に関し職員との意見交換を行っている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護・育児休業規程等、諸規程類の再整備を行う等、職員が働き易い職場環境・条件の整備に努めると共に、職員が向上心を持って働けるよう、資格取得に向けた支援をする等の配慮もしている			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の学びの重要性を認識し、それぞれの立場や経験を踏まえながら、段階に応じた研修会への積極的な参加を奨励・支援している	職員全体のスキルアップを図り、経験や習熟度に合わせた内外の研修を積極的に受けられるよう取り組んでいる。研修報告も行ない、サービス改善や質の向上に努め自己研鑽を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県GH協主催の研修や交換実習、その他、種々の外部研修に積極的に参加したり同業者同士が交流することにより、職員がお互いに切磋琢磨しながらサービスの向上に繋げていけるよう取り組んでいる	利用者と職員が一緒になった庄内地区グループホーム交流会が初めて開催され、各事業所より作品展示・ミニ運動会・演し物など多彩な催しはネットワーク作りの一役を担い相互交流に大きく繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心してサービス利用ができるよう、入居前に必ず面談し、困っていることや不安なことを聴いてあげることで、ご本人との信頼関係が築けるよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談や申し込みをされる段階から、ご家族等が困っていることや不安なこと、要望等にしっかり耳を傾け、ご家族等との信頼関係の構築に努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまで利用してきたサービスの継続性が必要か否かも含め、ご本人が置かれている状況やご家族等の要望を把握した上で、ご本人・ご家族等にとって、今どんな支援が必要なのかを見極め、検討している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができないことに対しては人間杖となったりしっかり支え、できることや得意なことは一緒に行ったりお願いしたりし、お互いに頼り頼られるような良い関係づくりに努めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出・外泊・外食を楽しんでいただいたり、ご本人の要望をご家族にお伝えしかなえていただくなど、ご家族との絆が断ち切れないよう、ご家族と密に連絡を取り合っている			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいらした際は、居室でゆっくり過ごしていただくよう対応したり、ドライブや買い物の途中に馴染みの場所に立ち寄りながら、これまでの関係が途切れないよう支援している。また、知人の送迎で短歌会や老人会に出席され、馴染みの方々との交流を続けている方もおられる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット会議で利用者様同士の関係について話し合いを持ちながら、利用者様同士の相性を考えて居場所を工夫し、利用者様同士が良好な関係を築きながら楽しく過ごせるよう支援している			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご本人の様子を見に出向いたり、ご家族からの電話相談に乗ったり、また、移り住んだ先の関係者から様子を聞いたりしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族等からの情報も参考にしながら、日々の関わりの中で、利用者様の言動や仕草・表情等から思いや意向を把握し、希望に沿えるよう支援している	アセスメントシートを活用し利用者本位の支援を行なっている。コミュニケーションや日々のケアの中で利用者の声を受け入れ、寄り添うことを大切にして、思いや意向を引き出すよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にご本人やご家族からお聞きした情報や、以前利用されていたサービス事業所からの情報等を把握し、利用後もご家族の来訪時やご本人との日常的な会話の中から積極的に把握するようにしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りノートを確認しながら、日々の関わりの中で、ご本人がどのように過ごしたいと思っているのか、また、今どんなことが出来るのかを常に考え職員同士で話し合いながら、個々の現状に即した支援を心掛けている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な会話の中でご本人から良く聞かれる言葉や様子、ご家族からの要望、主治医や看護師からの指示・アドバイス等を反映させながら、ユニット会議で話し合った結果を基に介護計画を作成している。また、介護計画は3ヶ月毎に見直し、入院等の変化が生じた場合はその都度見直しをしている	一人ひとりの持っている力を引き出せるよう、出来る部分をプランに取り入れている。定期のモニタリングやカンファレンスで職員の情報や気づきを共有し、支援手順の確認を行ない評価や見直しに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノート・日常生活チェック表・介護日誌に一日の様子や出来事、また、気づきや変化を記入し、勤務前に必ずそれらを確認し、情報を把握してから勤務に入るようにしており、介護計画の見直し時にも、それらを活用している			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者様の無断外出があった場合、地域の方からの通報で即応できるなど、ボランティア・園児の訪問や、日常的な地域の方々とのふれあいを通し、安全で楽しい時間を過ごしていただけるよう努めている。また、ご家族の協力により、趣味活動の為に定期的にコミセンへ外出している方もおられる</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療の実施や通院介助を行っている。また、体調不良時や緊急時にはご家族とかかりつけ医に連絡・相談し、医師の指示の下、適切な医療が受けられるよう支援している</p>	<p>定期的な受診は一人ひとりの予定表を基に専門医や協力医へ、殆んど職員が付き添いをしている。往診もあり結果はなごみ便りや電話で報告を行ない、職員はケース記録で共有し、安心した受診になっている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の健康管理を徹底し、利用者様の状態変化時は勿論のこと、小さな気づきも看護師に報告・相談し、必要があれば主治医に繋いでもらい、適切な受診や処置を行っていただいている。また、緊急時には夜間や休日にも連絡を取れる体制になっている</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者様が入院する際は必ず職員が付き添い、これまでの経過を病院関係者に伝えると共に、随時病院に向き、病院関係者・ご家族・主治医と連携しながら、治療の進捗状況や早期退院に向けての相談・情報交換を行っている</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応に係る指針に基づき、ご家族の意向を最優先にしつつ、ホームで出来る対応をご家族にお伝えし、かかりつけ医と相談し指示を仰ぎながら方針を決め対応。また、状態の変化時に於いては随時意思確認をし合いながら、チームワークで終末期ケアへの支援を行っている</p>	<p>重度化した場合の指針を文書化し利用者・家族の同意を得ている。日頃の関わりで、骨粗鬆症や体重、水分、食事摂取等身体状況の把握に心がけ、家族等の意向を大切に、状況の変化に合わせてチームで取り組んでいる。今後外部の医療研修等に参加を考えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成し、全職員が緊急時に冷静に応急手当や救急要請ができるよう、職員会議で定期的に勉強会を行うと共に、消防署の協力で心肺蘇生法等の研修も行っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	設備点検を定期的に行い、交換・修理等必要な対応を講ずるとともに、避難誘導訓練の実施や、地域との連携協力関係の構築に努めている。また、東日本大震災を機に、防災マニュアルの再整備、必需品の再点検・整備を行っている	毎年、地区の防災訓練等に参加し、地域との繋がりを強くしている。事業所独自では5月、10月に初期消火や骨折時の搬送方法等の訓練を実施している。東日本大震災の教訓からマニュアルの見直しや一人ひとりの一日分の非常食を確保している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼での理念の読み上げや内外の研修を通し、職員の意識向上を図っており、職員一人ひとりが、言葉遣いや接遇には十分留意しながら、日々の業務に当たっている	日々、利用者から学ぶ事も多く、尊厳を大切にしたい関わりに心がけ、トイレ誘導の声かけ等にも配慮している。接遇に関しては毎月の全体会議の中で確認合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の都合を優先せず、一人ひとりの思いや希望に傾聴しながら、できるだけ自己決定できるような声かけ・対応を心掛けている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、一人ひとりのペースを把握し、その一人ひとりのペースを大切に尊重しながら、ご本人の希望通りに過ごしていただけるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに出張していただいている理容師さんより、ご本人の希望に沿って散髪していただき、外出時にはおしゃれをして出掛けられるよう、ご本人と一緒に服を選んだりしている。また、ご家族の協力により、馴染みの美容院に行かれる方もおられる			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で作った野菜と一緒に収穫したり下ごしらえを手伝っていただいたりしながら、利用者様のすぐそばで調理している為、野菜を切る音を聞いたり、おいしそうな臭いを嗅ぎながら食事を楽みにされている。また、職員も一緒に食事を摂っている	食材は栄養バランスを考慮し、献立を含め納入業者の他、地域住民からの頂き物や、ホームの畑で採れた旬の野菜も取り入れている。外食ではラーメン、回転寿司等人気メニューが楽しみなものになっており、また食前にりんごの替え歌等で嚥下体操を行ない、美味しく食べている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、それを確認しながら、一日の必要量が確保できるよう努めている。また、食べ易い形態にして提供したり、体調に合わせて時間をずらして提供する等、一人ひとりの状態に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、一人ひとりの力や状態に合わせてながら、声かけや介助を行い、口腔ケアを徹底している			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、定時でのトイレ誘導を行うと共に、排泄意を感じている表情や仕草を見逃さず、すぐにトイレ誘導することで、排泄の失敗が少なくなるよう支援している	パターンに合わせ、時間を見計らい、声かけ等に工夫し誘導をしている。オムツ使用の方も少なくオムツから安心パンツになるなどレベルアップの例も見られ、トイレでの排泄を大切にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、できるだけ下剤を服用させず、運動や散歩を促したり、牛乳やジュースを提供したり、また、下腹部をマッサージするなどして、自然排便ができるよう取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応入浴日は設定されているが、発汗の多い方や失禁で尿臭が気になる方については、入浴日を増やしたり、シャワー浴を実施したりしている。また、身体状況や安全面を考慮し、時間をずらしたり、リフト浴にしたり、二人対応で介助したりし清潔保持に努めている	一人ひとりの希望を第一に、時間を気にする事なくゆったりと寛げる入浴になっている。皮膚などの観察を行ない身体面にも配慮しながら個別の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況、また、その時々希望により、ソファーや和室等で休息していただいている。安眠の支援としては日中の活性化を促したり、家から使い慣れた寝具を持って来ていただいたり、安心していただける声かけやスキンシップを図っている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の効能書きを綴り、情報を共有している。また、臨時薬が処方されたり、用量の変化があった際は、申し送りノートとケース記録に記録し、職員間で共有すると同時に、症状の変化は見逃さずにかかりつけ医に定期・随時に報告している			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味の情報を基に、その方の持っている力を引き出せるような役割を考えたり、ご本人が好きな事をして楽しく過ごしていただけるよう支援している。また、ボランティアの方々や地域の方々を招き毎月開催している『歌笑のつどい』は利用者様の楽しみごとの一つとなっている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームで計画した花見や外食の他、天気の良い日は敷地内を散歩したり、利用者様の希望する場所にドライブしたりし、ご家族からは外食や外泊、理・美容院への送迎等の協力を得ている。また、定期的に外出され趣味を継続しておられる方や、奥様の入所先に毎週定期的に外出されている方もおられる	日頃より、ホーム近くにある庭への散歩や、家族の協力を得、映画を観たり、ドライブの途中自宅を眺めるなど外出している。花見、海、紅葉等季節毎に車椅子の方も出かけ、気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで立て替え払いをしているが、必要な物がある場合はご本人と一緒に買い物をし、ご本人がお金の所持を望む場合には、その管理方法をご家族と話し合って対処している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から、手紙を出して欲しいとか電話をかけたいとの申し出があった際はいつでも対応すると共に、ご家族との電話のやり取りの際にも、ご本人とご家族が会話できるよう配慮している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用空間となっており、天窓から差し込む光には簾を利用して対応し、冬期間は床暖房を施して居心地良く過ごしていただけるようになっている。また、食事作りの匂いが生活感を漂わせ、その時節の花や畑で採れた野菜等を飾ったり見せたりしながら、季節感を味わっていただけるよう心掛けている	外玄関には、手作りの干し柿が吊るされ、内玄関に菊の花を飾り季節を感じられる。リビングでは、パズルや計算問題をしたり、食事の手伝い等を行なうなど、それぞれ思い思いに過ごすことができる居場所作りに配慮している。手洗い、うがいに努め感染症対策にも心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に畳スペース・三人掛けソファ・椅子が設置されており、それぞれ思い思いの場所でくつろいだり、気の合った利用者様同士で会話をしたりしている。また、外の景色を眺めて気分転換していただけるよう、玄関と玄関先に椅子を設置している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、ご本人が長年使用していたものや馴染みのものを持ってきていただいたり、飾ったりしながら、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している	防音装置の部屋もあり、居室にはデッサンされた絵や書道、短歌等、愛着ある物を持ち込み、安心して過ごす事ができる。入口には氏名を掲げず、花や折り紙を飾り温かい雰囲気作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりの設置・福祉用品の活用等で安全に配慮すると共に、できるだけ自立した生活が送れるよう、利用者様の背丈に合わせた流し台を設置したり、目線に合わせてトイレの場所を表示するなどして、混乱を招かぬよう工夫している		